

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		言語発達障害治療学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期 6,7時限他	教室名	402
担 当 教 員		榎 智史 西根 清夏	実務経験とその関連資格	医療機関・発達障がい支援施設にて、言語・コミュニケーション・学習支援を行ってきた。 資格:言語聴覚士・公認心理師(榎) 2016年より、耳鼻咽喉科クリニックで小児対象の言語訓練を実施。2024年、特別支援教育士(S.E.N.S)取得。(西根)			
《授業科目における学習内容》							
言語発達障害の評価・検査・分析を行い、指導計画を総合的な観点から立案・実施することを学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
学期末試験(100%)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・テキスト 玉井ふみ・深浦順一編「言語発達障害学第3版」医学書院, 2021 ・参考図書 尾崎他編「知っておきたい発達障害のアセスメント」ミネルヴァ書房, 2016							
《授業外における学習方法》							
・定型の発達段階は常に意識・確認しておきたい。 ・これまで習った知識と関連付けながら学習してもらいたい。							
《履修に当たっての留意点》							
・言語聴覚士として、根拠に基づいた分析、指導・支援の立案ができるよう心がけてほしい。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの評価方法について、その概要を説明できる。		・PCスライド ・配布プリント	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	子どもの評価方法について その手順やポイントを整理をする。				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	前言語期～語彙獲得期までの子どもについて、評価と支援の概略を理解する		PCスライド 配布資料	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	言語発達段階に即した指導、訓練、支援 ①前言語期 ②語彙獲得期				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期前期～幼児期後期までの子どもについて、評価と支援の概略を理解する		PCスライド 配布資料	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	言語発達段階に即した指導、訓練、支援 ③幼児期前期 ④幼児期後期				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新版K式発達検査の内容を理解し、採点ができる		PCスライド 配布資料 新版K式発達検査検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	前言語期～語彙獲得期～幼児期の評価の実際 新版K式発達検査 演習				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	PVT-R、S-S法、質問応答関係検査を実施、採点できる その他、幼児期検査の概要を理解する		PCスライド 配布資料 PVT-R、S-S法、 質問応答関係検査、その他検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	前言語期～語彙獲得期～幼児期の評価の実際 ・PVT-R、S-S法、質問応答関係検査 演習 ・その他検査の内容確認				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	S-S法の結果をもとに、評価～訓練立案～実施ができる	PCスライド 配布資料 各種玩具	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	指導技法を用いた指導、訓練、支援 ①意味・統語重視の指導、訓練(S-S法)		
第7回	講義 形式	授業を通じての到達目標	代表的な指導技法を理解し、説明できる	PCスライド 配布資料	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	指導技法を用いた指導、訓練、支援 ②語用論的アプローチによる指導、訓練 ③拡大・代替コミュニケーション(AAC)による指導、訓練		
第8回	講義 形式	授業を通じての到達目標	代表的な指導技法を理解し、説明できる	PCスライド 配布資料	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	指導技法を用いた指導、訓練、支援 ④インリアル法 ⑤マカトン法		
第9回	講義 形式	授業を通じての到達目標	乳幼児期における言語聴覚士の役割を理解し、地域の保健機関 や教育機関などとの連携について知る	PCスライド 配布資料	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	乳幼児期の地域支援		
第10回	講義 形式	授業を通じての到達目標	学童期の子どもの評価・支援について説明できる(1)	・PCスライド ・配布プリント	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	学童期の言語・コミュニケーション、読み書きなどの 困り感や、それに対する言語聴覚士の関わりについて 学ぶ		
第11回	講義 形式	授業を通じての到達目標	学童期の子どもの評価・支援について説明できる(2)	・PCスライド ・配布プリント	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	学童期の言語・コミュニケーション、読み書きなどの 困り感や、それに対する言語聴覚士の関わりについて 学ぶ		
第12回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー式知能検査(WPPSI, WISC, WAIS)の内容・ 実施目的・実施方法について理解し、説明できる。(1)	・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	実際に検査用具・記録用紙を使つての ウェクスラー式知能検査(WPPSI, WISC, WAIS)の演習		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー式知能検査(WPPSI, WISC, WAIS)の内容・ 実施目的・実施方法について理解し、説明できる。(2)	・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	実際に検査用具・記録用紙を使つての ウェクスラー式知能検査(WPPSI, WISC, WAIS)の演習		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー式知能検査(WPPSI, WISC, WAIS)の 解釈・分析、支援への活用について説明できる。	・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	事例を通して、結果の分析・支援方法について 検討する。		
第15回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	KABC-IIの内容・実施目的・実施方法について 理解し、説明できる。(1)	・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト 等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	実際に検査用具・記録用紙を使つてのKABC-II の演習		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		言語発達障害治療学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期 6,7時限他	教室名	402
担 当 教 員		榎 智史 西根 清夏	実務経験とその関連資格	医療機関・発達障がい支援施設にて、言語・コミュニケーション・学習支援を行ってきた。 資格:言語聴覚士・公認心理師(榎) 2016年より、耳鼻咽喉科クリニックで小児対象の言語訓練を実施。2024年、特別支援教育士(S.E.N.S)取得。(西根)			
《授業科目における学習内容》							
言語発達障害の評価・検査・分析を行い、指導計画を総合的な観点から立案・実施することを学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
学期末試験(100%)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・テキスト 玉井ふみ・深浦順一編「言語発達障害学第3版」医学書院, 2021 ・参考図書 尾崎他編「知っておきたい発達障害のアセスメント」ミネルヴァ書房, 2016							
《授業外における学習方法》							
・定型の発達段階は常に意識・確認しておきたい。 ・これまで習った知識と関連付けながら学習してもらいたい。							
《履修に当たっての留意点》							
・言語聴覚士として、根拠に基づいた分析、指導・支援の立案ができるよう心がけてほしい。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	KABC-IIの内容・実施目的・実施方法について理解し、説明できる。(2)		・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	実際に検査用具・記録用紙を使つてのKABC-IIの演習				
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	KABC-IIの解釈・分析、支援への活用について説明できる。		・PCスライド ・配布プリント	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	事例を通して、結果の分析・支援方法について検討する。				
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	DN-CASの内容・実施目的・実施方法について理解し、説明できる。		・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	実際に検査用具・記録用紙を使つてのDN-CASの演習				
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	DN-CASの解釈・分析、支援への活用について説明できる。		・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	事例を通して、結果の分析・支援方法について検討する。				
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	読み書き評価に関する検査バッテリーについてその目的や内容、実施方法を理解し、説明ができる。		・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。	
		各コマにおける授業予定	STRAW-RやROCFT等、読み書き評価に関する検査バッテリーの演習				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語評価に関する検査バッテリーについてその目的や内容、実施方法を理解し、説明ができる。	・PCスライド ・配布プリント ・検査用具	配布プリント・テキスト等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	LCSAやLCスケールなど、言語評価に関する検査バッテリーの演習		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	青年・成人期の支援について説明できる。	・PCスライド ・配布プリント	配布プリント・テキスト等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として青年・成人期の進学・就労などに向けた支援・関わり方を学ぶ。		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの評価をし、そのケースにあわせた支援・指導方法の立案ができる。	・PCスライド ・配布プリント	配布プリント・テキスト等を振り返る。
		各コマにおける授業予定	これまで学んだことを活用し、事例を通して評価、支援・指導方法の立案を行う。		